

Relationship between dental and basal arch forms in female patients with mandibular anterior crowding

学位名	博士(歯学)
学位授与機関	日本歯科大学
学位授与年度	2020
学位授与番号	甲第1222号
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00001090/



氏 名(生年月日)	加 ^か 藤 ^{とう} 万 ^ま 紀 ^き 子 ^こ (平成元年11月 9 日)
本 籍	東 京 都
学 位 の 種 類	博 士 (歯 学)
学 位 記 番 号	甲 第 1 2 2 2 号
学位授与の日付	令和 2 年 9 月 7 日
学位授与の要件	
学 位 論 文 題 目	下顎前歯部に叢生を伴う女性患者の歯列弓形態と歯槽基底弓形態の 関係
論 文 審 査 委 員	主 査 刈 部 洋 行 副 査 五 味 治 徳 春 原 正 隆

論 文 内 容 の 要 旨

矯正歯科治療では下顎歯列弓形態を維持することが後戻りの防止に重要と考えられているが、叢生を伴う症例では不明な点が多い。本研究では下顎前歯部の叢生 Mandibular anterior crowding (以下, MnAC) を伴う症例の歯列弓と歯槽基底弓の形態的特徴と両者の関係を明らかにすることを目的とした。MnAC を伴い上下顎第一小臼歯の抜去が必要と診断された女性患者30名 (MnAC 群) と正常咬合を有する女性30名 (Control 群) の下顎口腔模型を用いて、犬歯から第一大臼歯の各歯で歯列弓と歯槽基底弓の幅径・長径をそれぞれ計測して両群間で比較し、さらに歯列弓と歯槽基底弓の各幅径間の相関を検討し、以下の結論を得た。

1. MnAC 群の歯列弓形態の個人差は Control 群と比較して大きかった。
2. Control 群では、各歯における歯列弓幅径と歯槽基底弓幅径の間に有意な正の相関が認められた。
3. MnAC 群では、犬歯部を除く各歯で歯列弓幅径と歯槽基底弓幅径の間に有意な正の相関が認められた。
4. MnAC 群では、犬歯の歯列弓幅径と第一小臼歯の歯槽基底弓幅径、第一小臼歯の歯列弓幅径と第二小臼歯の歯槽基底弓幅径、および第二小臼歯の歯列弓幅径と第一大臼歯の歯槽基底弓幅径の間にそれぞれ正の相関が認められた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究では、MnAC を伴う女性患者の下顎における歯列弓幅径と歯槽基底弓幅径の関係について検討した結果、犬歯と小臼歯において歯列弓幅径と遠心隣在歯の歯槽基底弓幅径の間に正の相関があることを明らかにしている。これらの知見は、MnAC を伴う症例の多様な歯列弓形態に関する治療目標の設定に際し重要な情報を与えており、歯学に寄与するところが多く、博士 (歯学) の学位に値するものと審査する。